



長崎っ子の心を見つめる教育週間 終わりました

6/26（金）～7/2（日）までに実施された教育週間が終わりました。前日からの悪天候で実施できるか心配でしたが、7月2日（土）は、道徳の公開授業及びSNSに関する講話を行いました。雨の中、保護者の皆様には来校いただきありがとうございました。

道徳の授業では、1年生がノーベル平和賞を受賞したマザーテレサを取り扱った、「あふれる愛」です。スラム街で見向きもされない人々に対する慈悲あふれるマザーテレサの行動を通じて考えるもので、この世に生まれてきたすべての生命を尊重しようという内容です。2年生は、「私の生まれた日」という題材で、嫁いだ姉が毎年実家に戻って自分の誕生日を迎えることを不思議に思う妹が、姉との会話から誕生日は単に自分が生まれた記念すべき日ではなく、生んでくれたことに感謝する日であるということに気づかされたという内容です。3年生は、画集を参考に自分の作品を描く主人公が、人のまねをすることへの後ろめたさに葛藤することを通して、規範意識の醸成を図る題材で、自分の判断や行動を見つめ直し、善悪の判断を行っていこうという内容です。普段とは違い、学年の先生方や保護者の方々が参観しているため生徒たちは緊張していましたが、それぞれの考えを深め、自分の価値観を形成する様子が見られました。

SNSの講話は情報モラルについて、長崎県警察本部の少年サポートセンターから2名の方に来ていただき約1時間、様々な事例をもとに講話をしていただきました。日常生活で大人も子どもも利用機会が多いLINEの使用の中で、単語や短文で相手に返信することでトラブルが発生する例や、文章や写真を相手に送信する前に、自分自身の「判断力・自制心・責任感」が問われることを繰り返し言われました。現代はインターネット社会です。利用者が様々な危険性を理解したうえで使用することが大前提にあり、困った事態が生じたときは、迷わず周りの大人に相談することが大切であるということでした。

この講話の後、生徒は下校し学級PTAを開催しました。1学期2回目のPTAで、夏休み前の貴重な機会でした。各学年の1学期の様子を含め、保護者の方々からも家庭での生徒の様子をお聞きし、短時間ではありましたが有意義な会を共有でき感謝いたします。